

# 「人と社会と環境を豊かにするモデルの探求 ～Earth Company の試み～」

Earth Company 共同創設者、共同代表

濱川 知 宏 <リモート参加>



皆さま、こんにちは。アースカンパニーの濱川知宏です。いま私は、バリ島ウブドというところにおりまして、この長閑な田園風景のなかで、我々のオフィスがあるエコホテルからお話しています。エコホテルの事業については、後ほど説明させていただきます。今日は、「人と社会と環境を豊かにするモデルの探求～アースカンパニーの試み～」というタイトルで我々の活動についてお話をさせていただきます。アースカンパニーという団体は6年前に、私の妻明日香と2人で設立しました。それまで私も明日香もいろんな団体で活動してきましたが、自分達が信じるこのような活動をしたいと思いつち上げたものです。まずビデオを見ていただきたいと思います。

～インパクトヒーロー:ロビンさんの活動紹介ビデオ放映～  
このビデオは我々が活動をしているバリ島で撮影しましたので、我々が仕事を行っている雰囲気や、我々が支援しているロビンの活動状況などが皆さんへ伝わったかと思います。



アースカンパニーは、次世代につなぐ未来を創る組織です。いま求められているシフトというのは、言葉で表わすとこのように思っており、左側に列挙しているこれまでの社会から、右側に示すこれからの社会へ、「共創」や「すべての人の人権や尊厳が守られる社会」などたくさんありますが、このシフトへ少しでも貢献するために活動をしています。2014年10月に生まれた団体で、最初は少人数の仲間に支えられていましたが、今では40名ぐらいの仲間に恵まれ活動しています。



右側がエコホテルのスタッフですが、全てバリ人で 25 名ぐら  
いおりまして、左側が支援事業や教育事業に関わるメンバ  
ーで、日本、台湾、インドネシアを拠点に 15 名ぐらいます。



今まで 6 年間活動し、いろいろな賞をいただいたり、メディア  
に掲載いただいたりしてきました。



我々の4つの事業、インパクトヒーロー支援事業、インパクト  
アカデミーという教育・研修事業、インパクトコンサルティング  
というアドバイザー事業、そしてエシカルホテル事業につい  
て、それぞれ説明させていただきます。



まずインパクトヒーロー支援事業ですが、まさにこれをやるた  
めに団体を立ち上げました。俗にいうソーシャルアクセラレ  
ーターで、中間支援の立場から、最前線で活躍し活動するチェ  
ンジメーカーを支援するもので、1 年に一人を選び、その人  
を 3 年間集中的に支援するという形をとっており、かなりユニ  
ークな方法ではないかと思っています。今まで 5 人のインパ  
クトヒーローを選びました。まず一人目が、東ティモールのペ  
ラ・ガルロスという環境教育に関わっている人です。2016 年  
はロビン・リム、先ほどビデオで出てきた助産師です。あとマ  
ーシャル諸島で活動しているキャシーとう NGO を経営してい  
る詩人、フィリピンのジョン、ミャンマーのウエイウェイといっ  
たかたちで、アジア・太平洋の各地で活動する活動家を支援し  
ています。インパクトヒーローは公募で選出しますので、選考  
のファイナリストとして残った素晴らしい活動をしている方も表  
彰し、その活動を日本に紹介しています。

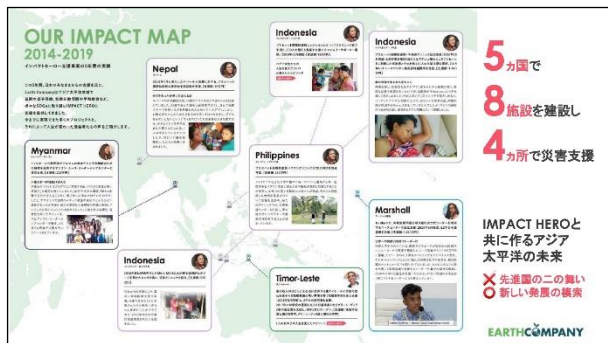


3 年間どのような支援をおこなうかですが、一つはファンドレ  
ージングで、我々が資金調達してお金を渡し活動費やプロ  
ジェクト予算として使っていただきます。一人当たり 1 千万円  
~3 千万円の資金調達をしています。二つ目がリーダーシッ  
プコーチングで、チェンジメーカーおよび団体経営者として  
どのようなチームを創っていき、どういふうに組織をマネー  
ジしていくかということをサポートします。三つめがマーケテ  
ィング支援で、このような活動をする人たちは活動が最優先に  
なってしまう、ソーシャルメディア、ホームページ、活動報告  
書作成などのリソースが不足していますので、広報支援、新  
規事業立案などを行っています。簡単に言えば、出来ることは  
何でもするスタンスをとっています。





これまで1億3千万円ぐらいの資金調達をして、その多くをインパクトヒーローへ届けており、個人、法人のドナーに支えられてやっています。



地図で並べるとこのような形で、それぞれの活動地域で感動するストーリーはたくさんあるのですが、我々が重視しているのは右下の「インパクトヒーローと共に作るアジア・太平洋の未来」ということで、アジア・太平洋の途上国に日本やシンガポールのようにしてほしいというのではなく、新しい発展のあり方を模索していくということです。日本やシンガポール、韓国なども、決して持続可能な形ではないので、途上国ならではの新しいモデルを作っていくということです。

**2015**  
 Leublara Green School  
 547万円

**2016**  
 Bumi Sehat Bali Clinic  
 1,061万円

**2018**  
 Three Disasters: Bali, Lombok, Baguio (Philippines)  
 635万円

**2018**  
 Bumi Sehat Papua Clinic  
 889万円

**2019**  
 Bumi Sehat Palawan Clinic  
 167万円

これまでの支援を紹介しますと、東ティモールでは環境教育施設の立ち上げ、ルブログリーンビラというエコツーリズムの宿泊施設、インドネシアのバリ島の助産院設立支援、インドネシア最東端パプアにおける新しい助産院建設、あと災害支援にも貢献しています。いまフィリピンで新しい助産院を支援するところです。

**2017**  
 Jo-Jikum Youth Center  
 1007万円

これはマーシャル諸島の平均海拔2mの沈んでしまうと言われている島に、マーシャル諸島や太平洋諸島の未来を担う若者を育てるユースセンターの建設にも貢献しています。

**2019**  
 Yangon Youth Leadership Center  
 223万円

これは今支援しているロヒンギャ族のウェイウェイです。ヤンゴンの少数民族を対象にしたリーダーシップセンターの運営費に223万円の支援をしました。

社会課題の解決に関心を持つ学生、社会人、起業家向けに「社会課題の現場」と「課題解決の本場」を五感で学び、チェンジメーカーを育成する教育プログラム

**IMPACT ACADEMY**

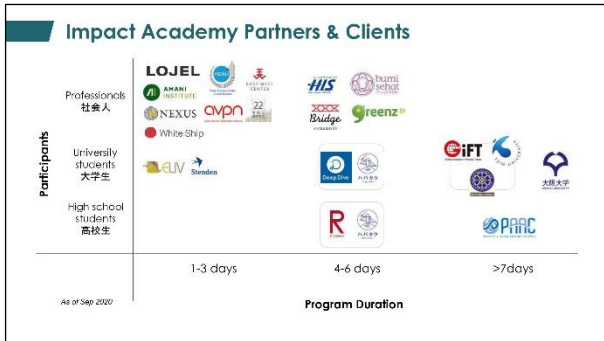
**IMPACT BALIが今必要な理由**

社会課題の現場 (Social Issues Field) / 社会変革の本場 (Social Change Base)

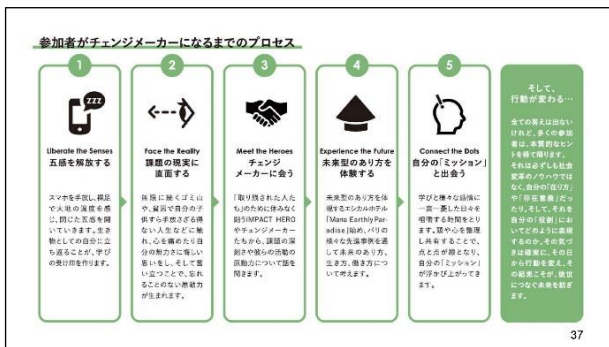
変革を生み出していく方法を現場と本場を行き来することで直接学び、課題解決の思考(左脳)、人を動かすパッション・表現力(右脳)、人生を懸けるミッションや自身の直感(心)に気づきます。

次はインパクトアカデミーと呼んでいる研修、教育事業です。この事業で重視していることは2つあります。一つは社会課題の現場を、いまバリ島でどう環境課題、社会課題が起

きているかを、五感をもって感じてもらうことです。もう一つは、そういう課題に対して命懸けで取組んでいるチェンジメーカーの社会変革の本場というところを見てもらうということです。これまで 40 本近くのプログラムを開催してきました、23か国から535名参加してもらっています。

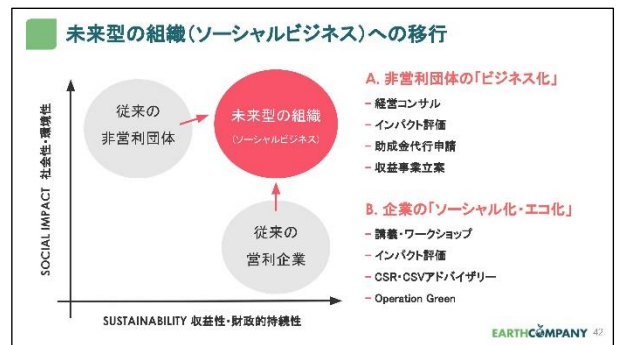


我々のパートナーさんやクライアントさんをマッピングするとこのような感じです。短いもので1日から、長いもので1～2週間のプログラムを提供していて、参加は高校生、大学生、社会人といった感じです。日本のパートナーでいうと、大阪大学、東洋大学、高校では立命館高校などのフィールドスタディを受け入れています。

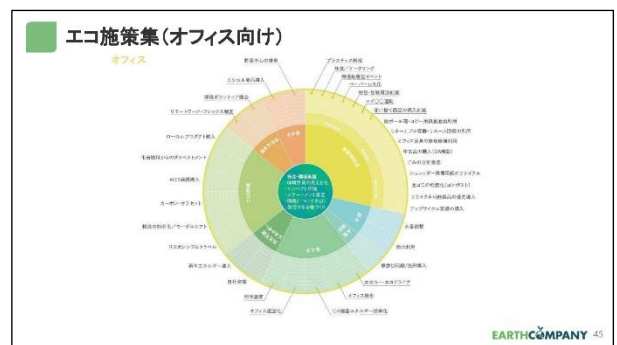


我々のプログラムに参加してもらって、それぞれチェンジメーカーへと育つようにインスパイアしようとしているのですが、最初に重要視しているのは、いま情報化社会で情報があふれているなかで、まずバリに来てもらって五感を開放するというです。デバイスばかり見るのではなく、ここで空気を吸って、汗をかいて、匂いを嗅いで、いろんな鳥の声を聴いて、とにかく動物として人間として立ち止まって、ただただそこにいる、be、そこに存在することに注視する。なるべく流すというイメージです。そのように流してみると入ってくるものがある、逆に流さないと入ってくるものがないということが、これまでプログラムを 40 本おこない分かってきたことです。1日目から五感を開放すると、二つ目の課題の現実に直面することが出来るわけです。そしてチェンジメーカーに会ってインスピレーションを受けるとか、未来形のあり方を体験するとか、インプットがちゃんと吸収されることがあって、最後にインプットが行動として変わっていくのではないかと考えております。この研修

事業の舞台となるのが、我々が運営するエコホテルです。先ほど動画であったブミセハット助産院へ行ったりとか、バリ島で有名なグリーンスクールへ行ったり、コペルニクや他のNPO、NGO、市民団体を訪れて、課題どとか解決へ向けて取組んでいるチェンジメーカーから直接学ぶということをやっています。

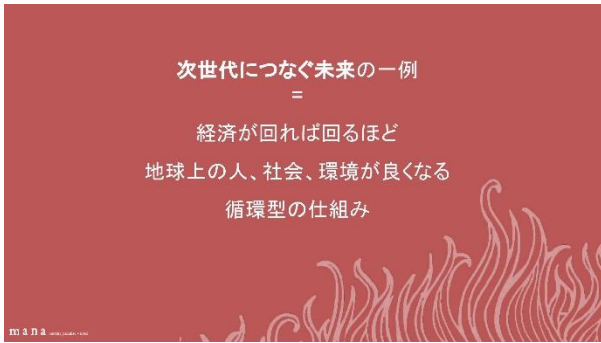


三つ目の事業、インパクトコンサルティングの説明に移ります。インパクトコンサルティング事業はこの図を使って説明することが多いのですが、未来型の組織、ソーシャルビジネスへの移行という方向に向かっていきます。従来の非営利団体は、社会的、環境的にいいことをしているが収益性、永続性に欠けているので、それをビジネス化するプロセスをお手伝いすること、また従来の営利企業は儲かっているが社会・環境にいいこともまだできる余地があるので、これのソーシャル化、エコ化というところをお手伝いしています。そのなかで重点的に進めているのがオペレーショングリーンというプロジェクトであり、数ある未来型経営・戦略の中の一つのアプローチ論として確立できればと思っています。



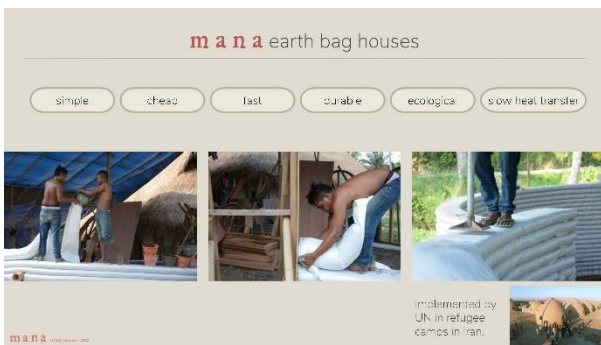






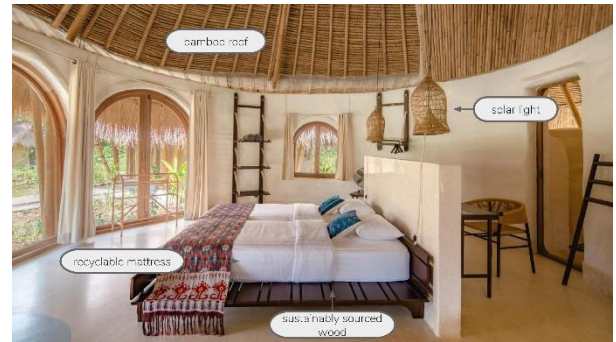
これが今日のプレゼンの中で一番重要なスライドなので、次世代につながる未来の一例をこのエコホテルを使って作っていきなと思っています。すなわち、経済が回れば回るほど地球上の人、社会、環境が良くなる循環型の仕組み。今迄は、経済が回れば回るほど、誰かが儲かれば儲かるほど、環境悪化とか、社会的弱者や他の人たちが搾取されるというカタチだったのですが、このウィンウィンウィンウィンの関係性をつくったビジネスモデルを開発して、これを軌道に乗せようとしています。こういうのも、やはり楽しくないと広まらないということで、我々のレストランで美味しいものを食べて、ここにきてもらうお客さまには楽しんでもらって、はじめてこういう活動が普及していくのかなと思っています。ここでビデオをご覧になっていただいて、このマナというところの雰囲気というのをお伝えできればと思っています。

～エコホテル Mana のビデオ放映～

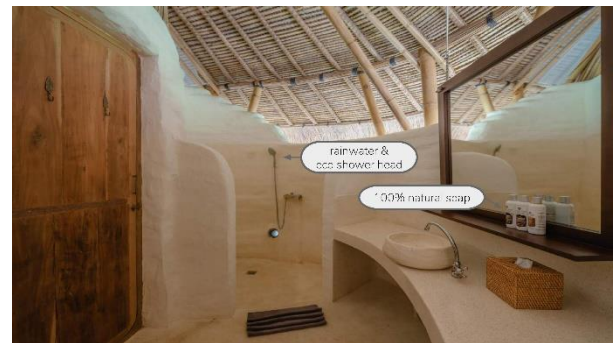


マナは大きく分けて宿泊施設とレストランと、ショップの3つからなります。1つ目のエコヴェラはアースバッグという建築方法で、非常に安価で早くて耐震性があるという本当にいい

と取りの建築方法で、簡単に言うと土嚢袋に土を入れてそれを固めていくというもので、例えば国連の難民キャンプなどで今は使われている非常に注目されている建築方法です。



これがヴィラの中なのですけれども、竹で屋根が出来ていて、あとソーラーライト、ここ敷地内のライトは全てソーラーライトでまかなわれています。あとはマットレスですが、実はサブスクリプション制度で毎月お金を払って7年後にはこのマットレスを回収してくれて、リサイクルしてくれるという、そういうマットレスを使っています。あと水には非常に気を付けていて、ここで使う水は、ここの屋根は藁葺ではなくて普通のパネルになっていて、ここから雨水をとって、駐車場の地下に大きなタンクがあってそこに貯めて、その水を濾過してヴィラだとかレストラン、トイレとかへ流して使っています。実は濾過されているので、水道の水も飲める状態です。ですので、ここで出している水も雨水が濾過された水を提供しています。



これがトイレの様子です。



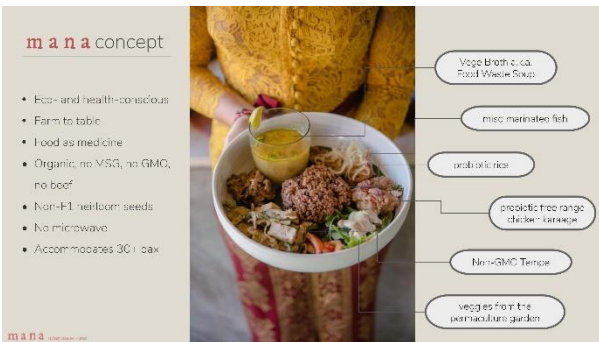
これがドミトリーです。最近エコホテルというと、ハイエンドになってきてラグジュアリー化しているのですが、我々は



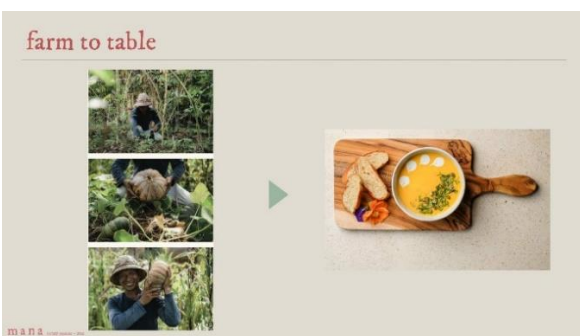
未来のあり方、未来の観光業の姿を目指して未来を担う人たち即ち若い人たちに体験してもらいたいということです、  
 こういふかたちをとって1泊1500円～1700円で泊まれるようなドミトリーを用意しています。



ソーラーパネルがこのような屋根についており、ウェイトウォーターガーデンといって、なるべく敷地内で汚水を綺麗にしてから放出することもあります。



キッチンです。これも実は酵素をテーマにしていたり、オーガニックを使ってみたり、人口調味料を使っていなかったり、人の身体を育む、癒す食べ物というものを提供しています。



あとファームツーテーブルといって、この敷地内の畑でオーガニックの野菜を採って、それをキッチンへもってきてもらって調理しており、これはアップサイクルグラスと言って、ビール瓶など使われた瓶を削って新しいかたちで使うというをしています。



これがレストランの様子です。



あと最後はマーケットですが、ここもエシカルショップのような経営をしており、ここで売っているものは全て社会にも環境にもいい厳選したプロダクツになっています。中には量り売りで洗剤を売ったり、右下のサンダルは廃タイヤをアップサイクルして出来たものであったりとか、それぞれ拘りのある社会性、環境性の高い商品を扱っており、それぞれのベネフィットを表すラベルも使っています。



このような感じのところです。

以上で我々アースカンパニーの事業についての説明を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。(終了)